

◆八木山地区小地域福祉ネットワーク研修会（令和7年2月20日）

小地域福祉ネットワークは地域社会の現状に対し、住民同士で見守りや声かけ、助け合い、仲間づくりなどの活動を意識的に行い、身近な地域での課題解決や住みよい地域づくりを行っているという取り組みです。

八木山地域では、互いを気遣う気持ちや関係を更に広げるために、前回までボランティア活動を行っている団体や組織を紹介してきました。

今回は子育て支援・小学生向けに活躍している二つの地域団体と、太白区社会福祉協議会から「若い世代への働きかけ」を他地区の事例で紹介をいただいた。



①八木山おやじの会

定例で開催もしくは参加している主なイベントには、新春餅つき大会、お花見、小学校でのお泊まり会があります。地区の夏祭り、児童館祭り、市民センター祭り、駅前ロータリーへの出店などがあります。このほか、小学校行事の応援で5年生の野外活動登山やPTAイベントのサポートなどにも参加しております。

長らくこの会が続いているのは、設立当初からの考えとなっており、「あまり頑張らず、自分たちも楽しみ、参加できる時だけ無理をしないで参加する」をモットーに活動を続けてきたからだと思います。



菱沼さん 山口さん 田中さん

結成は、平成13年で25年の歴史。八木山小学校とPTA、地域と連携し、年数回のイベントを開催するとともに、地域の祭りなどの行事に参加。会員数70名、常時活動会員30名。

②八木山子育て支援クラブ “メイメイ”

「おしゃべりサロン」と銘打って、親子で参加できる様々な企画したり、専門家を招く子育てQ&Aとリミック(子どもの心身の発達を促す音楽教育)、ヨガ、家庭料理の手ほどき等は人気のある定番企画も実施。小学生の親子が参加して縄文土器づくりも行いました。土器が乾くのを待ちながら過ごした野焼きの日までの1ヶ月は、子ども達の心に残る体験になったに違いありません。

年1回、地域の夏まつりにはメイメイショップを出店して、おしゃべりサロン以外での交流もしています。



大野さん 小野さん

八木山児童館を拠点に活動する子育て支援クラブ“メイメイ”を平成14年5月に立ち上げ、様々な世代の会員で現在は30名ほどが活躍しております。 <https://yagi3meimei.blogspot.com/>

③太白区社会福祉協議会 CSW 講話

「若い世代への働きかけ」と題して、太白区社会福祉協議会のCSW(コミュニティソーシャルワーカー:地域福祉の最前線で活躍する専門職)の岩切拓朗さんを招いて色んな事例を紹介していただいた。

- 事例① いわきりつどい紹介シート(岩切地区社協)
- 事例② 集まっぺクラブ(西中田第一町内会)
- 事例③ 見守りのすすめ(札幌市、区社会福祉協議会)
- 事例④ ちょこボラ(錦ヶ丘地区社協)

それぞれの地域特性を踏まえた取り組みに大いに啓発を受けた。



歌手:岩切拓朗さん
 昔、本職で歌を歌っていたとか。ということで、美声を発揮していただいた。“糸” “時の流れに身をまかせ” “さくら”……

岩切さん



令和6年度の赤い羽根共同募金が集計されました。町内会及び町内会員の皆様のご協力に感謝いたします。

そこで、今回は共同募金に大いに応募して、八木山の福祉に大いに役に立てていただくという趣旨で特集を組んでみました。

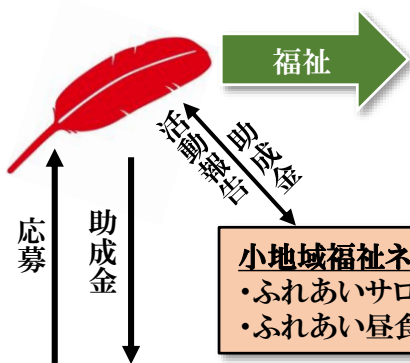
そこは「叩けよさらば開かれん」「求めよさらば与えられん」「欲しいなら行動しろ、頑張れ。そうしたら手に入る(かもね♡)」ということですから……。

令和6年度 赤い羽根共同募金報告

(単位:円)

町内会	募金額	町内会 他	募金額
青葉苑	55,000	八木山本町第一	100,000
青山	6,500	八木山本町二丁目	80,000
青山第一	82,500	緑花	90,000
青山二丁目	68,000	八木山団地緑風会	17,000
青山恵	30,000	若葉苑	38,000
恵和町	70,000	町内会計	1,188,463
桜木町	186,500		
さつき	4,500	街頭募金計	28,263
松が丘	194,463	八木山地区団体	30,000
みつば	19,000	法人団体	58,000
八木山八光台	40,500	法人・団体計	88,000
八木山東	106,500	募金合計	1,304,726

募金の使い道



赤い羽根共同募金は、憲法第89条の規定で民間の慈善活動には公金を充てられなくなったことから、アメリカの民間資金を募金によって集める仕組みを参考に構築された。募金は社会福祉事業に配分される。

なお、地域で身近なものとしては「住民力・地域力・福祉力支援助成金」で、各コミュニティで企画する社会福祉活動に「応募型」で審査の上配分される。

小地域福祉ネットワーク活動
 ・ふれあいサロン
 ・ふれあい昼食会

○赤い羽根共同募金は様々な福祉活動に配分され、福祉関係制度の狭間の潤滑油として活用されます。ただ、身近に感じられないことから義務感を感じられる方もおられますが……。

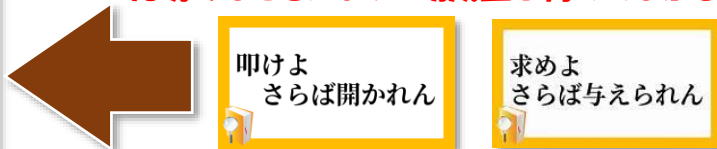
最近の住民力・地域力・福祉力支援助成金

平成25年	緑花町内会	250,000円
"	八木山東町内会	94,000円
"	青山第一町内会	238,000円
平成26年	八木山東町内会	250,000円
平成27年	若葉苑自治会	120,000円
平成29年	緑花町内会	90,000円
平成30年	八木山東町内会	180,000円
"	若葉苑自治会	132,000円
令和元年	若葉苑自治会	80,000円
令和6年	松が丘町内会	50,000円
令和6年	松の実会	50,000円

○町内会等でふれあいサロンや昼食会を開催した場合、社協経由で助成金を受け取っています。

○また、地域力向上に必要な施策が手元原資で賄えない団体等は、応募することによって助成金を受けることができます(審査があります)。

応募することによって助成金可得られるかもね♡



○応募に関してはNetや連合町内会を通じて町内会に周知されています。

(宮城県共同募金会HP: <https://akaihane-miyagi.or.jp/>)

※その他連合町内会やまちづくり研究会などでも助成を受けています。

おさんぽパトロール・わんわんパトロール

八木山地域おさんぽパトロール・わんわんパトロールは活動3年目を迎えました。昨年12月に2回目の情報交換会を開きましたが、パトロール活動の認知度も高くなってきていることが感じられました。

活動当初、パトロールに協力していただいた方にはネームタグやリードに通すグッズであるリードボーンをお渡しして、ながら見守りのアピールをお願いしていました。すると、特にわんわんパトロールのリードボーンがあいさつや会話のきっかけとなり、散歩中の地域の方々や子ども達との交流が増える効果があることがわかりました。顔見知りが増えること、声を掛けたり掛けられたりする機会が増えることで防犯意識が高まり、安心安全のまちづくりにも役立つと考えます。

そこで、おさんぽパトロールに参加していただいている方にも、パトロールをさりげなくアピールできるリフレクトキーホルダーをお渡しすることにしました。

八木山地区社会福祉協議会では引き続きおさんぽパトロール・わんわんパトロールへのご協力をお願いしています。参加希望の方は、八木山市民センターまたは八木山地域包括支援センターまでご連絡下さい。

散歩を地域の防犯に！



はんぺんてん ～半辺天の教訓～



女性は「半辺天(天の半分を支える人)」と称えられる存在です。奥様が急に入院することになり、半分どころじゃなかった、8割も奥様が支えていた。貯金通帳は？ 保険証券は？ 支払いは？ 洗濯機の使い方は？ 米が無くなった？ エトセトラ エトセトラ？ どうすべえ(;^_^A・・・ と焦るのが世の男性。

男性諸君、奥様を敬い愛しましょう、家事に積極的に参加しましょう・・・と実感を持ったご主人の話。

母の日には生協からのバラの花3本を買い求め、奥様にプレゼントしようではありませんか!(^^)! それが世の為、身の為ですぞ！



八木山みんなのカフェ

八木山みんなのカフェは八木山まちづくりプロジェクトが主催しています。その中でカフェを企画している構成団体は八木山地区社会福祉協議会、八木山地区民生委員児童委員協議会、八木山地域包括支援センター、東北工業大学地域のくらし共創デザイン研究所、八木山市民センターです。

令和6年度の八木山みんなのカフェは、4月のタケノコ堀りから始まりました。5月から月に1回土曜日の割合で、スマホ交流会、ポッチャ、モルック、凧を作って飛ばそう、包丁研ぎ教室や動物園のお話とつづき、最後は3月15日、TBC気象台の星野誠さんをお招きし、天気予報と放送局のウラ側のお話をお聞きし、交流しました。

令和7年度も多世代交流の場として、4月のタケノコ堀りから、スマホの困ったこと解消しようなど、企画しています。市民センターだよりでお知らせしていますので一緒に楽しみましょう。

3月15日(土)

TBC星野誠気象予報士の講話

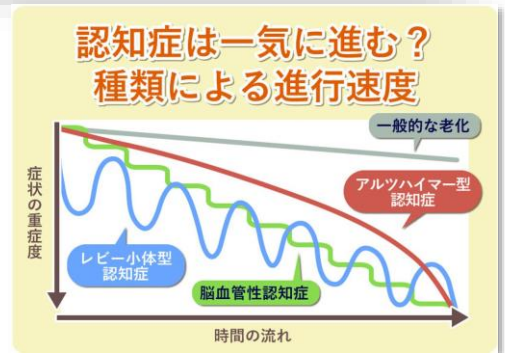


【令和6年度八木山地域圏域ケア会議開催についての報告】

“認知症にならないためにはどうしたらよいか”ではなく、“認知症になっても大丈夫”と思えるような八木山地域に！

令和6年10月11日(金)、「令和6年度八木山地域圏域ケア会議」を開催いたしました。当日は町内会長の皆様をはじめ51名の方にご出席いただきました。お忙しい中ありがとうございました。

これまで会議の開催を重ねてきましたが、令和5年度からは主に“認知症”に焦点を当てた内容で開催しています。今年度は仙台富沢病院より講師の先生3名にお越しいただき貴重なお話をして頂きました。今回の会議のテーマは「認知症になっても誰もが安心して暮らし続ける八木山地域へ」。実際に認知症の診断を受けた方々と日々関わられている経験も含め、当事者との関わり方や地域での生活を続けていくための取り組み、受診のタイミングなど多くのことを学ぶ機会となりました。実際に参加された皆様からのご意見として、「日頃から挨拶をする習慣をつけること」や「ご本人やご家族が相談しやすい雰囲気をつくること」が、認知症の診断を受けたとしても八木山地域で安心して暮らし続けるために一人ひとりができることなのではないか、といったご意見も頂戴しました。



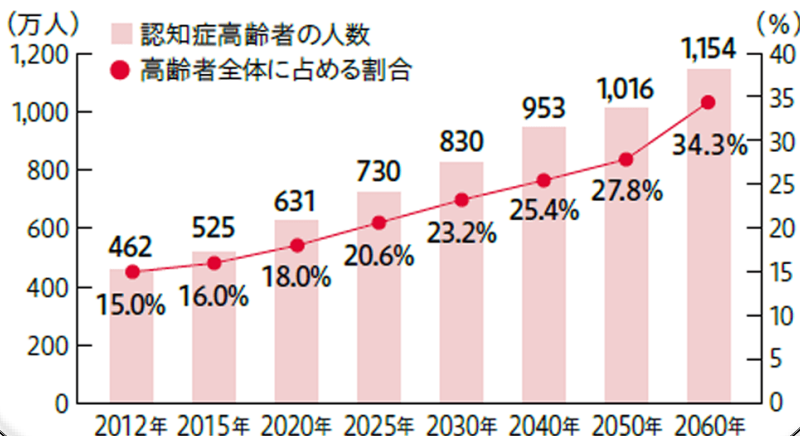
一言で「認知症」と言っても、その方の性格や生活環境、周囲の関わり方などによって症状や進み方はさまざまです。時には医療や警察の介入が必要なケースもあります。状況に合わせて関係機関が連携し対応できる体制を整えながら、身近な人に相談できる環境をつくっていくことが大切なのではないかと考えています。認知症は誰もがなる可能性があります。“認知症にならないためにはどうしたらよいか”ではなく、“認知症になっても大丈夫”と思えるような八木山地域にしていくために、私たち地域包括支援センターとしても一緒に考えていきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

(八木山地域包括支援センター 022-229-0811)

“認知症”は他人事ではない！

日本国内における65歳以上の認知症高齢者数は、2012年時点で約462万人。65歳以上の高齢者の約7人に1人が認知症を有しています。2060年には65歳以上高齢者の約3人に1人が認知症になると予測されており、認知症に起因する事故の増加、介護離職の増加、介護職員の不足等の社会的課題も深刻化することが予想されます。

認知症当事者の高齢者(65歳以上)人口の将来推計



～編集後記～

嬉しいお知らせです。八木山で30年配食サービスをつづけてきた「ふたばの会」の存続の危機をやぎやま地区社協だより44・45号でお伝えしていましたが、事業が若い人に引き継がれ、活動の継続が決まりました。高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らしていけるように、明るい地域づくりを「食」の部分で支えてきた活動です。家庭の味と栄養バランスを大切にしたい「ふたばの味」は4月からも続きます。

桜の開花が気になる頃となりました。青空の下、お花見に出掛けたいですね。

(連絡先) 大野貴子

